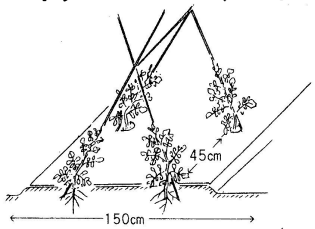
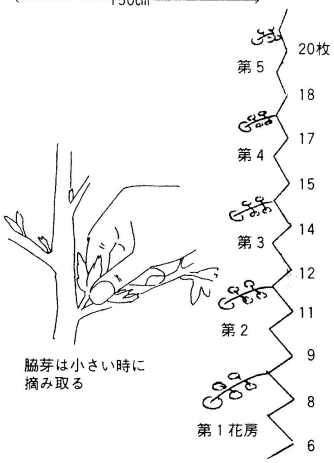
※ 5月の家庭菜園

＜果菜類のこれからの仕事＞

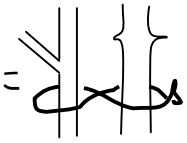
晩霜の心配が無くなったら、支柱を立てて、風雨に対して強く、長期間の収穫に備え、野菜の整枝の仕方を書いて見ます。

＜トマト＞　（ミニトマト）



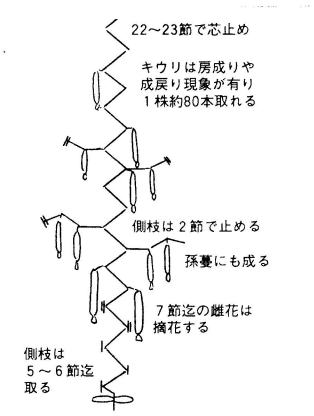


- 支柱の合掌作りが良いと思いますが横風には強いのですが、縦風には弱いので支柱を補強して下さい。
- 誘引は幹が太りますので固く結ぶと折れてしまいますので8の字型でゆったりと結んで下さい。



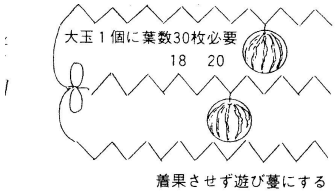
- 第一花房を外側に向けますと全部外側に花を付けます。
- 脇芽は摘み取り、主枝一本仕立てにして下さい。
- 第一花房は落花防止には気をつけて下さい。（ﾎﾙﾓﾝ剤）

＜キューリ＞

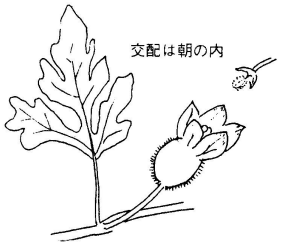


- 支柱はトマトと同じ合掌作りが風雨に対して一番強いです。
- 下から6節までは脇芽を全部取ります。
- 子づるは一枚、二枚を先に止めます。
- 地這キューリは畳一枚分で1株放任で同じ方向に伸ばします。

＜スイカ＞

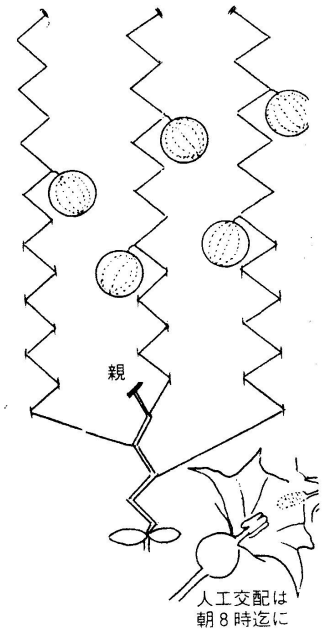


- 親づる本葉5枚で摘芯します。
- 揃った子づるを3本だけ残し、そしてUﾀｰﾝさせて一方に伸ばします。
- 元成りの雌花は捨てて、次の花から早朝に交配します。



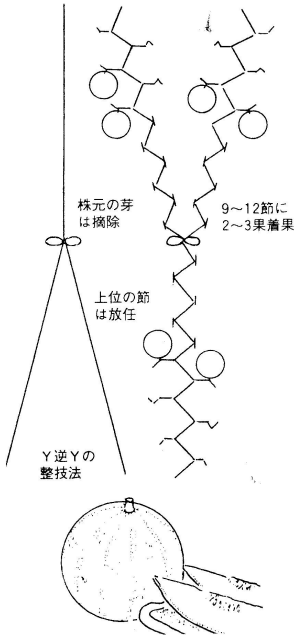
- 雨が降ると結実しませんので、雨を防いで実施して下さい。
- 交配の日付を記録しておくと（約45日）収穫に便利です。
- ピンポン玉大になった時に追配します。

＜カボチャ＞



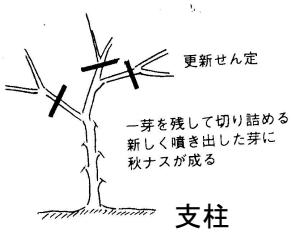
カボチャ・メロンとも、スイカと同じような対応を実施して下さい。

＜メロン＞



＜ナス＞

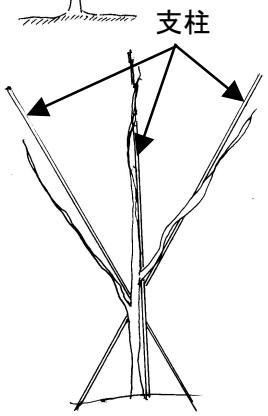
・更新せん定



・ 3本の枝を残して、後は全部切り取ります。

・ 7月下旬頃一芽を残し、先端を切り落とします。 約1ヵ月後に秋ナスが収穫できます。

・枝の更新せん定

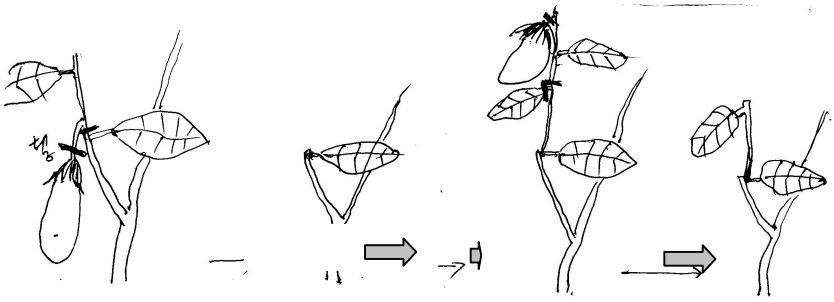


・ 180cmぐらいの長い支柱3本をしっかりと固定して下さい。
その支柱にそって枝を伸ばして下さい。

・ 3本の枝の先端は切らずに伸ばして下さい。

・ 枝のみ更新せん定することにより長期間収穫できます。

・ ナスを収穫したら、葉を1枚残して切ります。 葉の元から新しい芽が出て来ます。
本葉2～3枚が必ず花が咲き実を付けますので、実を収穫したら葉を1枚残し切る事を繰り返して下さい。



＜5月中旬　～　6月上旬＞
＜落花生＞
地上で花を咲かせ、下に下がり地中で実を付ける面白い豆です。　　お子さんと楽しんで下さい。
収穫後、すぐカラごと茹でて食べると最高です、 これが家庭菜園の醍醐みです。

・半立性大粒落花生　　株間は30cmにして下さい。
　家庭菜園向きの万能品種です。
・ジャンボ落花生　　株間は35cmにして下さい。
　新品種で大粒落花生の2倍の大きさで、甘味があり、食味が優れ、茹で落花生は最高です。

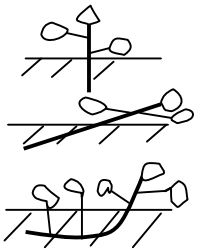
＜つるの子大豆＞　　株間は35cmにして下さい。
枝豆として若莢を収穫するのは、タネ播き後100日ぐらい、大豆として収穫は150日ぐらいの晩生種です。
　　煮豆の加工まめとして利用して下さい。

＜5月上旬　～　6月中旬＞
＜シカク豆＞　　株間は50cmにして下さい。
マメ科つる性植物です、さや断面がひし形で羽のようなヒダがある所から「ウィーンビーン」と呼ばれています。
10cm～15cmの若莢をてんぷらや軽く茹でてサラダなどに利用すると良いです。
地上部が折れたら、株元に小振りのイモ（根莢）が出来るのでこれを茹でて食べると非常に美味しく、美しい青色の花が咲きます。

＜5月上旬　～　7月中旬＞
＜赤種三尺大長ささげ＞　　株間は40cm～45cmにして下さい。
つるありささげです、非常に強健で莢は40cm～50cm程度の長い莢で、夏の栄養野菜として重要です。
莢はおひたし、油炒め、天ぷらなどに利用でき、豆も利用できます。

＜5月中旬　～　6月中旬＞
＜さつまいも＞
子どもたちと一緒に芋掘りを楽しみましょう。
植え付け方法は、5月中旬～6月中旬の地温が18℃になった時、株間30cm　×　畦巾60～80cmに1本根の無い苗を挿木します。
葉の付根から根が出て、そこに芋が付きます。　　地表面に近いほうが芋が付きやすいです。

・直立植え
　　2節を土中に挿し、1ヶ所に鈴なりに芋が付きます。
・斜め植え
　　3～4節を土中に挿します、深挿しにならないように挿します。
・船底植え
　　4～5節を深植えにならないように地表面に沿って挿します。
　　葉は埋めないように地上に出します。



（金時）
代表的な品種で、貯蔵性があり食感はあるが収量性は劣ります。
（紅あずま）
定番品質で、ホクホクして、焼き芋、ふかし、甘味をいかし天ぷら、大学いもなどにお勧めします、収量もあり栽培もしやすい品種です。
（太白）
白色で粘質で懐かしい味、干し芋を手作りで楽しんで下さい。
（パープルスィートロード）
従来の紫色品種の中ではホクホク感があり、ふかし芋にしても美味しく、甘味がありお菓子など加工品に最適です。

※注意点
・つるぼけ
　　つるが出来すぎると根が付き難いのでN系肥料を控えめにして下さい。
・センチュウ
　　土壌害虫が芋に付くと毛穴が深くなり形状が乱れます。

＜5月中旬　～　7月上旬＞
＜長うずら＞　＜つるなし本金時＞　　株間は50cmにして下さい。
両品種ともに生育の早い早育タイプです。　若莢は繊維が少なく美味しいです。
また　完熟豆は煮豆、甘納豆に利用できます。

-

	種まき		定植		収穫
夏ねぎ どり	10月下旬～12月	⇒	3月下旬～5月	⇒	8月～10月
冬ねぎ どり	2月～4月	⇒	6月中旬～7月中旬	⇒	11月～3月下旬
春ねぎ どり （晩生ねぎ）	3月～4月	⇒	7月	⇒	3月下旬～4月下旬
初夏どり	（株ねぎ、坊主しらず、株分け）		6月中旬～7月	⇒	5月上旬
万能葉ねぎ	ﾄﾝﾈﾙを利用すれば周年栽培が出来ます、種まき後2ヶ月～3ヶ月後に収穫になります				
ワケねぎ	球根		8月中旬～9月下旬	⇒	11月～5月頃まで